

おわりに

パラグラフライティングを学んで、私が書く文章は大きく変わりました。一番大きな変化はトピックセンテンスを意識するようになったことです。本当に伝えたいことは何か、軸とすべき概念は何かをいつも考えるようになりました。そして、パラグラフのなかでトピックセンテンスのサポート以外のことは書かないように気をつけました。それまでの私は、参考文献で調べたことや自分で考えたことを、すべて詰め込もうとしていたのです。情報量が多くなるほど情報の整理は難しくなり、わかりにくい文章になるのです。今では、文章を書く時だけでなく、学生への講義の準備をする時や、大学の会議で発言する時も、本当に伝えたいこととそれをサポートするために必要な情報の選択を意識するようになりました。この作業のくり返しは、私の考え方の基盤となりました。私は、パラグラフライティングに感謝しています。

文章がうまく書けない理由は、人それぞれに違うと思います。私はトピックセンテンスに直接結びつかないことまでサポートに書き込んでいましたが、サポートが足りない人もいでしょう。学生を指導していると、トピックセンテンスの内容を絞り込めない人もたくさん見かけます。この本を読んで定型的なパラグラフについて知っていただくことで、その人がうまくいっていないポイントがわかれば、きっとわかりやすい文章を書くための糸口が見つかると思います。

私にとって幸運だったのは大学の同僚にパラグラフライティング指導の専門家である高橋先生がいたことです。彼女にはパラグラフライティングについてたくさん教えてもらいました。そして、パラ

グラフィティングの技術を自分も身につけたい、学生にも教えたい、という思いを同じくする野田先生と私が協力して、この本ができました。パラグラフィティングと同じぐらい二人にも感謝しています。

この本は、日大医学雑誌での連載が下敷きになっています。日本大学医学会事務局の関彩子さんには、中断を挟みながら足掛け3年にわたる連載を支えていただきました。彼女の支援がなければ、この本は世に出ませんでした。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

本書のデザインは羊土社の足達智さんにご担当いただきました。複雑で抽象的な内容が多い本書の記述ですが、足達さんのデザインのおかげで随分とわかりやすくなりました。優しい水色も気に入っています。ありがとうございました。

最後になりましたが、私どもにこの本を書く機会を与えていただき、辛抱強く叱咤激励してくださった羊土社の今城葉月さんに感謝の意を捧げます。

2024年2月

著者を代表して
日台智明